2　測定器の条件

⑴　標準信号発信器を次のように設定する。

搬送波周波数	試験機器の受信周波数帯の中心周波数
変調	無変調
出力レベル	受信機入力端において、提出された書面により規定する動作レベル

⑵　スペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	使用帯域の中心周波数
掃引周波数幅	50MHz
分解能帯域幅	１MHz程度
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
トリガ条件	フリーラン
検波モード	ポジティブピーク

3　試験機器の状態

試験周波数及び試験拡散符号に設定し、最初に受信状態にしておく。

4　測定操作手順

⑴　標準信号発生器の出力レベルを試験機器の受信機入力端で、提出された書面により規定する入力レベルに設定する。

⑵　試験機器を受信状態にする。

⑶　標準信号発生器の出力をオンの状態とする。

⑷　試験機器を送信動作にし、電波を発射しないことをスペクトル分析器で確認する。

⑸　試験機器を受信状態にする。

⑹　標準信号発生器の出力をオフの状態とする。

⑺　試験機器を送信動作にし、電波を発射することをスペクトル分析器で確認する。

5　試験結果の記載方法

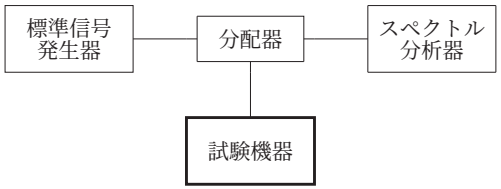
4⑷及び⑺を確認できた場合は「良」と、それ以外の場合は「否」と記載する。

6　その他

電気通信回線設備に接続する試験機器については九の項、十一の項又は十二の項のうち、いずれか一つのみ行う。

十　混信防止装置（キャリアセンス機能⑵　屋外で使用する模型飛行機の無線操縦の用に供する送信装置（周波数ホッピング方式を用いるものを除く。）のキャリアセンス機能）

1　測定系統図



2　測定器の条件

⑴　標準信号発生器を次のように設定する。

搬送波周波数	試験機器の受信周波数帯の中心周波数
変調	無変調
出力レベル	試験機器の入力端において、提出された書面により規定する動作レベル

⑵　スペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	使用帯域の中心周波数
掃引周波数幅	50MHz
分解能帯域幅	１MHz程度
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
トリガ条件	フリーラン
検波モード	ポジティブピーク

3　試験機器の状態

試験周波数に設定する。

4　測定操作手順

⑴　標準信号発生器の出力レベルを試験機器の受信機入力端で、提出された書面により規定する入力レベルに設定する。

⑵　試験機器を受信状態にする。

⑶　標準信号発生器の出力をオンの状態とする。

⑷　試験機器を送信動作にし、電波を発射しないことをスペクトル分析器で確認する。

⑸　試験機器を受信状態にする。

⑹　標準信号発生器の出力をオフの状態とする。

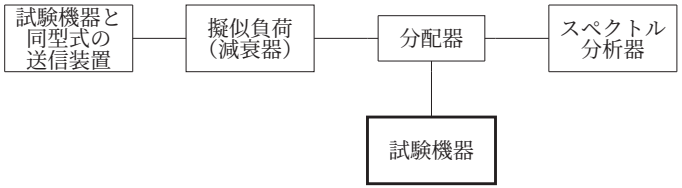
⑺　試験機器を送信動作にし、電波を発射することをスペクトル分析器で確認する。

5　結果の表示

4⑷及び⑺を確認できた場合は「良」と、それ以外の場合は「否」と記載する。

十一　混信防止装置（相関信号センス機能⑴）

1　測定系統図



2　測定器の条件

⑴　擬似負荷（減衰器）の減衰量は、相関信号センス動作を確実に確認できる受信機入力電圧になるとともに、試験機器と同型式の送信装置からの信号と試験機器からの信号がそれらのレベル差によって区別できる適当な値とする。

⑵　試験機器と同型式の送信装置の条件は、次のとおりとする。

搬送波周波数	試験機器の受信周波数と同一
拡散符号	試験機器の送信用拡散符号と同一
出力レベル	可変の場合は、最大出力レベル
その他	必要に応じて、シールドボックス等に収納する。

⑶　スペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	使用帯域の中心周波数
掃引周波数幅	50MHz
分解能帯域幅	１MHz程度
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
トリガ条件	フリーラン
検波モード	ポジティブピーク
表示モード	マックスホールド